

令和5年12月14日

### 「ごちそうさまキャラバン」立ち上げの背景

子どもたちに温かい食事を無償または安価で提供し、孤食の子どもたちに共食の機会を作り出す「子ども食堂」は年々その必要性を増しており、全国には7,363箇所の子どもの食堂が存在しています\*。またその一方で、日本では年間523万トンのフードロスが生じており、フードロス問題に取り組む団体も年々増加しています。

「ごちそうさまキャラバン」は、これらの社会課題を繋ぐことで、互いにとってWIN-WINの関係を作り出すことを目的として構想されました。さらには「ごちそうさまキャラバン」という活動体のもとで、これまで独立分散的に活動していたさまざまなNPO団体や企業、自治体が繋がることにより、安定的な食材回収や資材提供等を可能にします。

\*2022年 NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえの調査による

### なぜ「ごちそうさま」「キャラバン」なのか？

「ごちそうさま」は、食材への感謝を込める言葉でありながら、また同時に食事の際の大切なコミュニケーションのひとつでもあります。フードロスに象徴されるように、現代の日本人の多くが忘れかけてしまっている「食材への感謝」を再び思い起こし、また地域の子どもたちが共に食卓を囲む際の幸せな掛け声として「ごちそうさま」を団体の合言葉としました。

また「キャラバン」は、「どこかでは余っていても、また別のどこかでは必要とされている食材たちを運んで繋ぐ」という私たち団体の活動意義を示す言葉であるとともに、大小さまざまな団体を繋ぎ、ひとつの活動体として協働していくにあたっての旗印でもあります。多くの団体を巻き込みながら、参加するそれぞれの人々が強みや個性を持ち寄ることによって、「ごちそうさまキャラバンがやってきた！」というような形で地域の皆さんに愛され、社会課題を共に解決していくことを目指します。

## 連携三者の詳細

## ■ 新潟市



新潟市は、2022年に内閣府より「SDGs 未来都市」に選定され、「食と農」の持続可能性を高める様々な取組にチャレンジしています。「フレッシュフードシェア活動」もその一つで、規格外野菜をはじめとした未利用の食材を子ども食堂に提供する活動に取り組んでいます。

子ども食堂の支援について、これまでもマップやハンドブックの発行・補助金といった形で取り組んできていましたが、今後、子どもたちの孤食問題と地域のフードロス問題をつなぐ「フレッシュフードシェア活動」で、さらなる支援をしていきます。

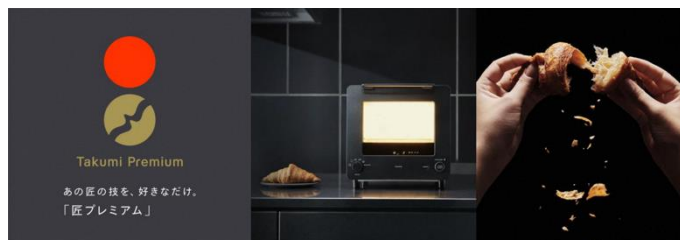
## ■ 株式会社ツインバード

心にささるものだけを。



株式会社ツインバードは、1951年に新潟県燕三条地域にて、メッキ加工業として創業。1984年からは本格的に家電事業に参入。以降、お客様の声に真摯に耳を傾けた商品開発と、職人たちによって受け継がれた確かな技術力で、お客様にご満足いただける製品・サービスを提供しています。

## ■ 本取り組みにおける提供製品のご紹介



## TWINBIRD

## 「匠ブランジェトースター (TS-D486B)」

2023年11月17日(金) 発売

「匠ブランジェトースター」は匠の頭脳を宿したトースターです。世界一※1のパン職人浅井一浩氏の暗黙知を搭載した「匠 BRAIN」。パンの種類に応じたおいしい焼き方で、まるでプロがあなたのために調理するように、パンを丁寧に焼き上げます。

※1 世界大会 iba cup 2015 総合優勝

## ■ 株式会社博報堂

## ● HAKUHODO ●

博報堂は1895年に創業し、「生活者発想」と「パートナー主義」という変わることのないフィロソフィーのもとで、日々革新を続けています。高いクリエイティビティを持つプロフェッショナルがチームを編成し、広告領域のみならず、経営・事業から社会課題まで、あらゆる領域でクライアントの皆様の国内外における課題解決をお手伝いしています。今後もクリエイティビティの力で生活や社会、事業構造の変革に寄与するような新たな価値を提供してまいります。